

人とトキが共生する豊かな地域環境をめざして

# ひととも トキも

Vol.3

Oct. 2011



中国国家林业局



日本国際協力機構(JICA)

2010 - 2015

人とトキが共生できる地域環境づくりプロジェクト

## ACTIVITY REPORT

## SERIES

- 02 High Light/  
各活動の報告
- 04 Special Report/  
棚田復活事業の実施
- 05 Pickup/  
トキ情報コーナー開設  
車両贈呈式を実施

- 06 人とトキの物語/  
漢中朱鷺国家級自然  
保護区管理局 路副局長
- 08 事業関係者の紹介  
棚田復活事業の実施
- 09 Xi'an Cool/  
回民街



# High Light

今期の活動報告

## 0625 コウライアイサの捕獲と送信機



コウライアイサは世界でも極東だけに生息し、個体数は3000～4500羽と言われているカモの仲間で、極東ロシア南部、中国吉林省、黒竜江省、北朝鮮で繁殖し、越冬地は江西省が中心と言われていますが、分布は不明な点が多い鳥です。また、中継地の情報も少ないです。この調査は、繁殖地で人工衛星型送信器を鳥に装着し、それを追跡することによって中継地、越冬地を解明し、保護に役立てることを目的とした調査です。

全国鳥類環志中心からの依頼で、米田専門家が捕獲および送信機装着の技術協力を行いました。調査は黒竜江省中華秋沙鴨自然保護区で6月25日から7月4日の日程で行われました。今回の調査では2羽の成鳥と1羽のヒナを捕獲しました。成鳥は送信機を装着後すぐに放鳥、ヒナは秋まで飼育し、その後送信機を装着して放鳥する予定です。

## 0721 0916 定例会を開催

定例会は我々のカウンターパートである中国林業科学院バンディングセンターや各省の担当者が参加しプロジェクトの進捗状況や課題の共有を図る会議で月1回を目処に開催しております。

定例会では、自然環境調査、モデル事業、順化ケージ整備などさまざまなプロジェクト活動に関する議論について細かく日中双方で情報が共有され、朝9時からお昼の1時間の休憩を挟んで夕方5時まで長時間にわたり熱い議論が繰り返されました。

その議論の中でお互い、よりよい活動を通じ、より一層地元住民がトキと共生できるような生活環境を作るために、日中双方で知恵が出されていき、我々の活動内容に反映されていきます。

# High Light

今期の活動報告

## 0801 エコツーリズム座談会を開催

JICA中華人民共和国事務所から総括次長の岡田次長、官民連携担当企画調査員の青木企画調査員の2名がプロジェクトを訪問し、JICA専門家チームと共に在西安の旅行業者とエコツーリズムに関する意見交換を実施しました。参加者からは中国でもエコツーリズムへの関心が経済成長に伴い高まっていること、一方でその内容の充実も求められている等最新のエコツーリズムに関する情報も教えていただきました。

陝西省にはトキ以外にもパンダやキンシコウ、ターキンが生息するなど豊富な自然環境があり、ポテンシャルの高さを日中双方の関係者が確認しました。エコツーリズムの分野では特に官民連携の可能性も期待ができるので、JICA中国事務所の支援も受けながら、今後プロジェクト活動を進めていく予定です。



## 0809 放鳥トキのモニタリング研修： 佐渡における手法の紹介と技術交流

8月から9月中旬にかけ、本プロジェクトの実施地区3サイトを巡回し、中島短期専門家による出前研修を実施しました。各サイトでは、野生のトキが約800羽まで増加し生息範囲も拡大している洋県、これから放鳥が計画されている董寨などそれぞれモニタリングの実情や課題も異なります。この研修は、GPS送信器を用いた追跡やアニマルマーカを用いた個体識別など佐渡での手法を紹介するだけでなく、積極的な議論を行い各サイトの現場の

担当者との間で相互の技術交流の良い機会となりました。今後も随時、技術交流を進めながら、モニタリング技術の向上を図っていきたいと考えています。



## 0807 コミュニティフォレストに関する 国際会議へ参加

タイ、バンコクにて開催された国際会議へ中国林業科学院バンディングセンターの劉冬平博士と江紅星博士と平野専門家が参加しました。コミュニティフォレストとは日本語では社会林業と訳すことができますが、自然保護と地域経済活動を両立させることを目的とした概念で、当プロジェクトが目指しているゴールとも一致します。ASEANを中心として活動する各国のNGOや国際機関のプロジェクトの事例、またその経験から得られた教訓を共有すること

ことができました。会議開催初日には、参加各国の伝統服を着用が義務付けられた、パーティーも開催され国際色豊かな会議となり成功裏に終了しました。



## 0818 佐渡と洋県・寧陝県の子供達が交流

この事業は日本の環境省と中国国家林業局による合作事業として、今年始めて実施されたもので、プロジェクトは現地での活動実施に協力しました。子供たちは洋県のトキ飼育センターを見学するとともに、洋県と寧陝県でトキのねぐらを訪れ、夕方に帰ってくるトキや早朝飛び立つトキの様子を観察しました。

また、洋県では草バ村の朱鷺湖小学校の子供たちとの交流会が開催され、佐渡での生き物調査の様子や草バ村の子供たちのトキにちなんだ踊りや絵画などがそれぞれ紹介され、交流を深めました。



# High Light

今期の活動報告

## 0915 西部地域行政官研修に講師として参加

JICA中国事務所が、内モンゴルや甘肅など西部地域の行政官を対象にフフホト市で開催した「環境に配慮した地域づくり」研修に、米田専門家と中島専門家が参加しました。米田専門家は、プロジェクトの紹介を、中島専門家は、佐渡のトキ保護事業とトキ米認証制度との良い循環関係について話をしました。「いつか、個別にうちの県に講義に来て欲しい」と言う参加者もあるほど、意義のある講義になりました。



## 0920 董寨自然保護区紹介パンフレット作成



董寨自然保護区の職員と共同で、董寨自然保護区を紹介するパンフレットを作成しました。董寨の特色は何といってもその豊富な鳥類の種類。バードウォッチャー憧れの地でもあります。

開発による生息地の減少や羽毛目的の乱獲で減少し、現在、国家一級保護動物として保護されているオナガキジ(尾長雉)や、ワシントン条約付属書Ⅱに掲載され、高知県の県鳥にも指定されている、ヤイロチヨウ(八色鳥)の美しい姿も運がよければ見ることができます。

さらに現在、佐渡から来たトキも含めて90羽近いトキが飼育中で、近い将来放鳥が行われる見込みです。放鳥後は佐渡生まれのトキも見ることができるようになり、一層、中国全土、世界からの観光客やバードウォッチャーが豊かな自然に触れるようになることが期待されます。

## - Pick up Report -

ピックアップ リポート

### 0804 四輪駆動車の引渡し式を実施

本プロジェクトの実施3サイトに1台ずつ、計3台の四輪駆動車を供与しました。もともと5月に納品の予定でしたが、3月の東日本大震災を受けて納期延長となり、8月4日に西安で引渡し式を行いました。

トキの生息地は山地が多く、モニタリングや自然環境調査等、九十九折の道路でパワーを発揮することが期待されています。参加した各サイトの職員からはこれからは、より安全で効率的に野外の仕事を進められる等、各々プロジェクト活動への意欲を語ってくれました。



供与された3台の四輪駆動車



漢中朱鷺自然保護区管理局  
丁局長へのキーを引き渡し



各サイトの関係者ととともに

# special Report

スペシャルレポート

## 「トキの住める水田の復活を目指して」

～ 塞溝村水路修復事業に着手 ～



### 寧陝・塞溝村

塞溝村は秦嶺山脈の山あい位置する標高1200mの谷間に開けた村です。寧陝県のトキ再導入事業の拠点地区で、2007年に日本政府の支援によって飼育繁殖、モニタリングのための施設(管理棟、飼育ケージ)が設置され、放鳥されたトキが村内に定着し繁殖しています。



塞溝村



採食中のトキ



耕作放棄された棚田

### 村の現状

村の主な産業は農業ですが、若手の男性のほとんどは都市部に出稼ぎに出て、農業の主力は老人と女性です。農作物は米のほか、シイタケやクリの栽培が盛んです。

山林主体の寧陝県の中でも塞溝村は水田が多い村の一つで、棚田が多く見られますが、近年人手不足や洪水による用水路の破損で耕作放棄された田んぼが目立っています。

### 地元の要望と課題

プロジェクトと地元の林業局や村民との話し合いの中で、地元からはクリ栽培への技術支援や用水路の復旧について強い要望があり、地元の農家は、水が来れば水田を又作りたいと強い意欲を持っていることが判りました。水田はトキがドジョウやカエルなどを食べる大事な餌場で、トキの生息環境づくりのためにも水田の再生は重要な課題です。

### トキの住める水田の復活へ

このためプロジェクトでは、トキの住める水田の復活をめざして、用水路の復旧に取り組むこととし、今年5～6月にかけて、まず第1歩の取り組みとして一部の取水堰や水路の補修を実施しました。セメントや砂などの資材は、プロジェクトが供与し、工事は村人が自分たちで実施しました。今回の修復で、トキの巣の近くにある水田に十分用水が供給できるようになり、村人からも大変喜ばれています。

塞溝村では、今後野生復帰のための順化飼育ケージの整備やトキのためのビオトープ整備が計画されています。次のステップとして、塞溝村のより広い範囲で水路網を整備し、より多くの水田を復活させ、ビオトープも整備する方向で、現在、林業局や地元の村と計画を練っているところです。



修復された取水堰



水路の整備によって復活した水田

# - Pickup Report -

## ピックアップ リポート

### 1009 トキ情報コーナーの開設

「トキ情報コーナー」とは、我々JICA専門家が勤務する西安事務所の会議室を広く一般の人々に解放し、トキの中国での分布や現状、トキに関する日中協力事業について、JICA専門家から説明が聞ける場所です。そのほか、プロジェクトにて作成した洋県のトキの保護の歴史を紹介するDVDを視聴することもできるほか、官民連携やCSR(Corporate Social Responsibility)について民間企業からの相談等も大歓迎で受け付けております。

日本からの一般観光客向けには「地球の歩き方」西安・敦煌・シルクロード編にて既に「トキ情報コーナー」を紹介済みですが、今後は中国の若者、特に自然保護に関心のある学生へも、これから「トキ情報コーナー」の紹介をしていくつもりです。先月は、北京林業大学の大学院生が「トキ情報コーナー」を訪問し、トキ保護に関する意見交換を行いました。大学生達がボランティア活動を意欲的におこなっている様子は、我々専門家にも励みになりました。今後は機会があれば連携して活動をしていくことも相互に確認しました。

「トキ情報コーナー」は中国の自然環境保護に興味・関心がある人全てに開放されたプラットフォーム的存在になることを目指しており、日本人観光客、日本の大学生、留学生、もちろん、中国の大学生や、日中の企業等幅広い層の方々には訪問していただき、JICA専門家チームと様々な議題について討論し、何かを生み出せる「場」になるように願っております。お茶くらいしか、おもてなしできませんが、スマイルはゼロ円にていつでも提供しておりますので、ぜひ、西安にお越しの際は「トキ情報コーナー」へお越しいただき、トキを含めた、中国の自然環境全般について、一緒に語り合いましょ!!!



## プロジェクト関係者の紹介



短期専門家

中島卓也

佐渡での経験を生かしつつ、  
中国の実情に合わせたモニタ  
リング体制の整備を



# PROJECT STAFF

プロジェクト関係者

本年7月末より短期専門家として派遣された中島卓也(なかじま・たくや)と申します。

私は大学で生態学を専攻し、2008年より環境省佐渡自然保護官事務所のアクティブレインジャーとして、トキの野生復帰に関わってきました。日本では初の取り組みとなるトキの野生復帰はモニタリングも手探りの部分が多く、試行錯誤を経て軌道に乗ってきたといえます。トキが人里に暮らす鳥であるという点と同様に、モニタリングも観察や追跡の技術面のみならず、地域や人々の協力なくしては成り立たないということを実感しました。

これまで毎日のようにトキの追跡でフィールドに出ている佐渡での経験も生かしつつ、本プロジェクトでは中国の実情に合わせたモニタリング体制の整備に力をお手伝いできればと思っています。特に、野外での繁殖も順調で個体数も増加し、生息地も拡大している現状では、状況に合わせた調査手法や記録方法、持続的に可能なモニタリングというだけでなく、人とトキが共生を図っていくための施策や、今後放鳥が予定されている地域での野生復帰にフィードバックができるようなモニタリング体制の整備や構築を目指していきたいと考えています。

私個人としては初の中国、初の海外勤務ということもあり、業務の面ではもちろん、日常生活においても言葉や生活習慣、文化なども含めまだまだ新しい発見の連続で、プロジェクトや関係者の方々のお力をお借りしながら過ごしています。生活環境も島から大都会へと大きく変わりましたが、種類の多さである西安は、趣好きにとって至高の「生息」環境だと感じています。短期間ではありますが、よろしくお願いたします。



中国林業科学院  
全国鳥類バンディングセンター

## 刘冬平

トキ保護と地域経済が  
共に発展する道を探る



# PROJECT STAFF

プロジェクト関係者

2000年5月私はトキに関する修士論文を執筆するためトキの故郷である洋原へ調査に行きました。そこで初めて美しく絶滅の恐れがあり非常に珍しいとよく聞かされてきたトキに出会いました。当時トキの数はまだまだ少なかったため保護区の職員はどうしたらトキの個体数を大幅に増やせるかという問題に一番関心を持っていました。長期の野外モニタリングの経験を通じてトキという生物種が生存することの厳しさを強く感じただけでなく、現地の保護機関が大変な心血を注いだことも分かってきました。山奥の繁殖地では職員が給餌をしたり、絶え間なく巣を監視するなど、トキを全面的に保護できるよう、地元の農民たちと一緒にさまざまな保護措置をとり、トキのために桃源郷のような環境を作りました。

当時はトキとの縁が続くと思っていませんでした。卒業後、全国バンディングセンターに入り、鳥類の移動や鳥インフルエンザ、絶滅危惧鳥類の保護等を担当していましたが、トキの保護が一番大切な仕事だと認識しています。数年が経過した現在では、トキの分布地域も陕西省、河南省、浙江省そして北京と4省1市の計6か所に広がり、個体数も見事なレベルにまで増加し、絶滅の恐れが大幅に緩和しました。しかし、トキがその桃源郷から飛び出すとともに、トキ保護の難題は解決するどころか、逆に複雑になりました。新しい分布地域の住民の保護意識をいかに早く高めるか、トキ保護のための無農薬栽培と地域経済の発展がいかに両立するか。これらの摩擦は、行政からの補償金などによりいくらかは緩和できましたが、こうしたやり方だけでは完全に解決できないことも徐々に明らかになりました。この観点からは、現在のトキ保護は以前の自然科学から現在は社会科学に変わったといえるでしょう。幸いなことに、関係機関はすでにこの問題に気づき、解決方法を考え始めています。具体的な行動の一つとして、国家林業局は「JICA」とトキが共生できる地域環境づくりプロジェクトをスタートさせました。トキ保護と地域経済が共に発展する道を探り、人とトキが共生しながら、絶滅危惧種であるトキの保護を促進することを目標としています。

最後に、森の精霊としてトキがこれからも自由に青い空を飛べるように祈っています。



# PROJECT STAFF

プロジェクト関係者



陕西省林業庁  
常秀雲

寧陝にて4年連続、  
野生化での繁殖が  
成功。第二世代のト  
キの誕生にも貢献

1983年7月に大学を卒業し、陕西省林業庁野生動物保護管理ステーションに配属されて以来、私とトキは深い縁で繋がれることになりました。

トキの保護をより一層推進させるためこれまで長くに渡りトキの保護活動に励んで参りました。また、科学研究セミナーを主催したり、学術論文においてはこれまで20編余りを発表しました。中でも「トキ優良個体の導入繁殖試験」の論文は2005年に「陕西省第九回自然科学優秀学術論文賞」をいただきました。1991年からは特に中日両国のトキ保護交流に力を注ぎ、陕西省のいくつもの協力プロジェクトを成功させました。また、関係するトキ保護機関にはトキの生息地保全と飼育管理の両面で技術指導を行いました。近年はトキの人工繁殖と洋県以外への再導入に取り組み、執筆した「トキ優良個体の導入繁殖試験」の研究で、日中両国のトキ分散飼育に有益な情報を提供しました。2005年からは、トキ野生復帰の研究を主管し、野生復帰の実現可能性について報告しました。特に寧陝県のトキ野生復帰プロジェクトでは、4年間連続して野生下での繁殖に成功し、第二世代のトキも誕生しています。

2010年9月からはJICAの人とトキが共生する地域環境づくりプロジェクトと陕西省の日中協力プロジェクトのチームの調整役として幸運にも皆さまと出会うことができました。私達が今後共に努力し合い、日中のトキ保護のため、私自身さらに貢献したいと望んでいます。

連載インタビュー Vol.2



漢中朱鷺国家級自然保護区管理局  
路宝忠副局長

## 過去、現在から、未来へ 洋県から、世界へ

全世界で絶滅したと思われていたトキが発見された時、その数わずか、7羽。発見されたのは良いものの、絶滅の危機は、目の前。そんなプレッシャーを背負い、見事に保護の成果を出した男たちの中の1人、路(現)漢中朱鷺国家級自然保護区管理局副局長。当時、新卒だった彼は、もう30年、最前線で保護活動をしている。我々の関心事すべてを、インタビューさせて頂いた。

### ■ 当時

保護が始まった当初、プレッシャーは大きかったのではないですか？

路 はい。世界にここ洋県の7羽のみ。私は、新卒で、何の経験もありませんでした。まず、トキの特性、生態などを把握しなければならなかっただけでなく、保護し、更に繁殖させなければいけません。餌場から、飛んでいく先、どこまでも追っていきました。やはり、プレッシャーは大きかったですよ。以前は、4カ国に生息していたトキが、今は、ここにしかいなくなってしまったわけですから。全世界が注目してたわけです。毎日、トキの姿をひと目見ること、心を落ち着かせる事ができました。1日見れなかった時は、不安でした。

何か困難にぶつかりませんでしたか？

路 トキが生息する谷の村に移住しました。大きな山の中にあり標高も高く、交通も不便で、住んでいる農家も少なかったです。生活環境は厳しいものでした。この辛い、劣悪な環境で、しっかり保護活動を行うことはとても難しい任務だと感じていました。



この仕事に意義を感じていましたか

路 はじめは、この仕事は責任を果たすことに精一杯でした。必ず、真摯に仕事を遂行し、トキの安全を確保し、観察し、研究しなければなりません。数年従事するうちに、トキに対する感情が芽生えました。トキが繁殖に成功した時は本当にうれしかったですし、怪我をした時は、私も辛かったですね。トキの状態が悪いと、私たちも食欲がなくなり、寝付けぬ時もありました。自分たちのほんとの子供のような感じでしたね。よく、夢にも出てきました。

### ■ 中国人とトキ

トキは、中国では“吉祥鳥”とも呼ばれています。

路 トキは、歴史上、山のふもとに住み、繁殖する鳥です。農家の周辺に生息しています。そして、トキは赤いですよね。赤は、中国、農民にとっては吉祥、紅红火火(＝生活が豊かになっていくこと、商売が繁盛すること)の意味で、トキが家の玄関や家の裏に現れた時は、そういう象徴になりますね。現地の農民は、伝統的にそういう価値観を持っています。



# 人とトキの物語

## ■中国人とトキ

トキは、現地の農民にとってどんな存在でしたか？

路 はじめ、農民はトキが世界的にも希少な鳥と言うことも知りませんでした。ただ、住民の間では、あまり生活の邪魔をしないという認識があり、保護の意識はありましたね。私が小さい時も、村での印象はあまりないですね。鳥の生活を干渉する事はなかったですから。

現在、中国人にとって、トキはどんな存在ですか？

路 過去には、吉祥鳥と呼ばれていましたが、現在は、「東方の宝石」「世界の貴重品」とも呼ばれています。我々民族や人類のシンボルでもあり、生態のシンボル、文明のシンボル、日中協力などに見られる友好のシンボルでもあります。たった一種の鳥ですが、様々な意義があります。また、美しい動物でもあり、美のシンボルでもあります。



## ■日中協力

日中協力の保護事業についてどう思われますか

路 中国も日本もトキが分布していた国です。保護の過程で、日本のトキは絶滅してしまいましたが、今は、互いに研究しながら情報、技術交流などを通し、相互補完出来るようになってきました。トキの保護プロジェクトが、中国だけでなく、日本や他の地域でも発展すれば、分布範囲が広くなり、生態の回復がより強固なものになり、長く地域に根を張って生き抜く力になりますので、今後も引続き協力しながら保護を進められればと思います。

日中協力で、印象深い出来事はありますか

路 車などの移動手段の提供、観察機材、保護施設の資金援助が一つ。そして、人工飼育面での鳥類保護専門家の派遣、これらにより、私たちの事業の発展もより早くなったと考えています。

## ■啓蒙・宣伝活動と、今後の夢

今、プロジェクトの一環として、エコツーリズムに取り組んでいます

路 エコツーリズム事業の開発とは、トキへの理解の促進が主な目的です。活動資金源を確保したいという考えもありますが、より重要なのは、それによる啓蒙、教育活動ですね。トキの生活に悪影響を与えないという前提のもとで、進めて行きたいです。



プロジェクトの将来に対して、どんな夢を持っていますか

路 いま、約1600羽いますが、この数字から言えば、まだ完全に絶滅の危機を逃れたわけではありません。まだ、発展の余地が、大きくあります。洋県だけでなく、他の広範な生息可能地域での人との調和のとれた、共生を実現しなければなりません。人とトキが共生できる環境づくり、これが我々のテーマです。野外での保護、野生復帰へ向けた放鳥、地域住民への啓蒙活動や生態環境づくりなどの地域環境づくりをしっかりとっていききたいと思います。

# XI'AN COOL

今ここにある西安

vol.2  
「回民街」

西安の有名な観光スポットである、「回民街」、とは何か。人によってイメージするものが土産街であったり、西安の「小吃」のメッカであったり、回民（イスラム教徒）の居住区であったり。また、時に「ぼったくり」と言われるコピー商品市場であったりと、懐の深い場所である。

「回民街」とは狭義では、鼓楼を南端とし、北院門を北端とする、約500メートルほどの“直線の通り”を指し、広くは、回民の住む、鐘樓の西北側のエリア一体を指す。

西安と言えば、シルクロードの起点である。この回民街の形成と東西交易との関係を、調べてみると、漢、唐の時代にはシルクロードを通ってきた、アラブ人やペルシャ人の使節、商人、留学生が、また、元の時代にはモンゴル軍により、強制移民させられた西・中央アジアの人達が、漢族と通婚しながら定住した場所、とのこと。強制移民をさせられた人達の存在は知らなかったが、そもそも「回民」の「回」とは、西域に帰りたいくても帰れない人、と言う意味があるらしい。（数ある説の一つ）

昔から、ここは、「賈三包子」のような名店が軒を連ねる商業の盛んな所、そして、主流の漢民族文化と一線を引きながら、イスラム文化が維持発展してきた独特な場所である。急速に高層ビルが増え、道路拡張が進み、風景が変わる西安にあって、開発の波に抵抗し、昔とほぼ同じ街並、生活スタイルを維持する回民。回民の生活エネルギーは、彼らの先祖の歴史、意志を引き継いでいるのかもしれない。そんな歴史に思いを馳せながら、ぶらり散策を楽しめる場所が、「回民街」である。

（文：岩下）



## 秋の活動予定 next activity

10月 カウンターパート訪日研修(佐渡、豊岡他)  
アジア湿地シンポジウム出席  
蘇短期専門家着任

11月 環境教育モデル教科書配布

12月 トキ絵画コンクール

本誌「ひととキも」に関する皆様のご意見、ご感想をお聞かせください！



[toki.jica@hotmail.co.jp](mailto:toki.jica@hotmail.co.jp)

## 人とキが共生できる地域環境づくりプロジェクト

〒710082 陕西省西安市蓮湖区労働南路296号民航大廈14F

TEL/FAX: +86-(0)29-88793312

URL: [http://www.jica.go.jp/project/area/asia/033\\_1.html](http://www.jica.go.jp/project/area/asia/033_1.html)

E-mail: [toki.jica@hotmail.co.jp](mailto:toki.jica@hotmail.co.jp)

担当:

日本側担当者 平野 貴寛

中国側担当者 索 文娜

## お断り

本誌は、プロジェクトの近況や情報を率直に読者に伝えることを目的としており、国際協力機構（JICA）の意見を代表するものではありません。